

人とつながり魅力的なまちづくりを

長崎伝習所は、昭和61年にまちづくりの人材育成とネットワークづくりを目的として設立されました。その名称は、幕末期に長崎に設置され、多くの人材を輩出した「海軍伝習所」「医学伝習所」などに由来し、長崎の活性化につながる人材育成の場になるようにとの願いが込められています。



平成26年度は、塾事業として長崎で2塾、東京で1塾が、長崎の特徴を活かした魅力あふれる幅広いテーマで、それぞれの目標に向かって、調査研究に励みました。

また、「塾事業」の他に「つながり事業」にも取り組み、まちづくりリーダーの養成をめざす「ファシリテーター養成講座」では、日本ファシリテーション協会の堀公俊氏を講師に迎え、若手人材の育成を行いました。26年度は、25名が修了、まちづくりの様々な場面において養成講座で学んだことを活かし活躍をしていただけたと思います。

さらに、「自分新化講座」では、元NHK会長の福地茂雄さんにプロデュースをお願いし、その交友関係の中から様々な分野でご活躍されている講師の方々をお招きして6回の講座を開催し、多くの市民の皆様に参加をしていただくことができました。

長崎伝習所は、27年度には開所から30周年を迎えることとなります。これまでに、256もの塾が、長崎のまちづくりに関する様々な取り組みを行い、卒業した塾生の総数は延べ9,018人にも上ります。塾生同士の人的ネットワークと「市民力」を発揮しながら、「長崎の未来を創る、時代の半歩先を行く」をテーマに様々な取り組みを行ってきました。30周年を迎えるにあたり、これまでの力強い市民活動としての歩みを再認識するとともに、これからの長崎伝習所のあり方について検証し、長崎のまちづくり、ひとづくりの大きな力となれるよう更なる進化をめざして参ります。今後も様々な視点から、まちづくりのための人材育成に取り組んで参りますので、多くの市民の皆さまのご参加をお待ちしております。

最後に、塾長をはじめ塾生の皆さまのご努力と、お忙しいなかご指導いただきました運営委員の皆さま、並びに、長崎伝習所の活動にご協力をいただきましたすべての皆さまに対しまして、心から厚く御礼を申し上げます。

平成27年3月 長崎伝習所 総長 田上 富久

運営委員からのメッセージ



●運営委員 座長 安田 正次

先日湯布院へ行ってまいりました。30年ぶりの湯布院でしたが地元の方々の訪問客への“おもてなしの心”に驚きと感動を受けました。

実は今回の旅は、当初、旅行日の出発直前に諸事情で行けなくなり、キャンセル料を支払い、旅行を一旦諦めたものでした。キャンセル後、暫らく経ってからその宿の女将さんから電話があり「このたびはお迎えすることができず本当に残念でした。もし近い内にお出でいただけるようであれば、キャンセル料はその日まで前料金としてお預かりさせて

いただきます。前料金との差額だけお支払いいただければけっこうですので、ぜひとも湯布院までお出でくださいませ。」とのことでした。

私は湯布院の温泉や景色よりもその“おもてなしの心”に触れてみたいと再度日程調整して後日湯布院を訪ねてみたのです。

宿へ到着するや否や女将さんのみならず従業員の方々から「ようこそ湯布院へ」と大歓迎を受けました。街並みを散策した際もお店の皆さま方の町を挙げての“おもてなしの心”を至るところで感じました。

今や、観光地は貴重な歴史資産や素晴らしい景色や、より良いサービスを提供するだけでは来訪者の支持は得られないと思います。何より行政職員だけではなく、また観光産業に携わる方だけではなく、県民や市民など地域を挙げて“感動”を与える“おもてなしの心”を持つ必要があると思います。

長崎伝習所は行政と市民の皆様が一緒になって長崎の活性化を実現するものです。今後の長崎は歴史資産を活用した観光客誘致などの交流人口の拡大が地域の活性化に必要であると思っています。設立30周年を節目の年として長崎伝習所が“感動を与えるおもてなしの心”を醸成できる場所となり、長崎の活性化に貢献できるものとなるよう皆さまと共に努力していきたいと思っています。よろしく願いいたします。



●運営委員 生月 菜々子

運営委員になり、早1年が経ちます。長崎伝習所の歴史は、私よりも年上です。先輩である伝習所にどのように関わっていけば良いかな？と考えた1年間でした。伝習所は、長崎の歴史・文化・人などを掘り出して、皆が輝けるように、お互いが自分に足りない部分と出来ることを共有し、成長していく場だと思います。私もこれから、ここで「自分に何が出来るか」「皆さんと一緒に何をしたいか」を考え、行動して成長していきたいと思っています。



●運営委員 大櫛 格

先日、中島川界隈を歩きました。町家（屋）が点々と残っている麴屋町や寺町から新大工方面は私が特に好きな散策コースの一つです。

中通り商店街はちょうど「人間サイズ」の大きさで、頭を左右に振るだけで店先に並ぶ商品を見ることができます。この町家は築何年？店主は何代目なのかな？などと考えると楽しいですよ。間口が狭く奥に長い店舗を見つければ店の奥をのぞき、思わぬ造作を見つけると家主に話し掛けてしまいます。

皆さん 1 年間の塾活動お疲れ様でした。明日からまちをさるいて人生を楽しくするアイデアを見つけましょう。



●運営委員 兵働 馨

近年、まちづくりにおいて「協働」というフレーズがキーワードの一つになっています。

行政と市民、大学、企業がそれぞれの強みを持ち寄り、一緒に汗をかきながらまちづくりに関わっていくことで、長崎市ではこのような取り組みが数多く報告されています。

その先駆的な役割を果たしてきたのが、長崎伝習所の塾事業ではないでしょうか。

今後もこの塾事業は、その時代の環境やニーズに対応しながら「協働」の推進役としての役割を果たしていくものと確信しています。



●運営委員 平川 友美

地域創生が政策の目玉として注目を集めています。そのような点からも、この長崎伝習所が担う役割はますます重要になると考えています。塾生の皆さんが、自主的にこの長崎にある魅力的な部分に着目し、分析し、多くの方へPRしたり、次へ繋げたりすることを楽しんでやっていらっしゃるからです。

地域創生の根本とはこのように私たち市民一人一人の「I LOVE 長崎」という情熱に他ならないと思います。

来年はいよいよ創立 30 年。これまでの歴史を築いてくださった方々に感謝し、「変わってはいけないこと」「変わらなくてはいけないこと」をもう一度再考し、ますます発展する長崎伝習所になるよう運営委員としてお手伝いしたいと思います。



●運営委員 吉田 隆

長崎のまちづくり・人づくりに常に新たなアイデアと可能性を見出してきた長崎伝習所も、30年という歴史を積み重ねてきました。NPOやエコロジーの概念さえなかった時代から、これからのまちづくりの方向性を示しリードしてきた長崎伝習所の意義は大きかったように思います。あれから時代が移り変わり、人々の生活意識やコミュニケーションの手段も大きく変わっていく中で、長崎伝習所に求められるものも変化してきました。そしてこの5年ほどは、長崎伝習所の新たな可能性を模索していく中で、今まさに転換期が訪れているように感じています。幸い、この数年減少気味だった塾も再び増加傾向になり、これからの時代を半歩でもリードできる推進力のある市民のみなさんの活躍に期待しています。



●アドバイザー 森永 春乃

少子高齢化、人口減少などを筆頭に日本を取り巻く問題、課題は多い。そして日本の各地でそれを乗り越え生き残るかに凌ぎを削っているのが現状であろう。それは取りも直さず我がまち長崎も同じである。

地域の活性化にどれだけ貢献できるかということでは、今年30年を迎える「長崎伝習所」への期待も膨らむ。幸い長崎には調査、研究などに適した素材は多いと思う。これまでに卒業した「塾」には都市計画にも提言できるようなプロフェッショナルなものもあり頼もしさも感じる。若い人を巻き込むための工夫がこれから更に必要となろう。



●アドバイザー 山崎 加代子

1986年に長崎伝習所ができてもうすぐ30年。

当時の市の担当者も塾長も塾生もどうい

う方向に進めていったらいいか、日々暗中模索でした。若い人が多かったので、各塾の例会や活動も華やかで笑いも絶えず。

今は、高齢者が多く、その中で少数派の若い人が揉まれています。それもひとつの形かと思います。できれば学生も含めていろんな考え方や仕事違った人たちに、もっと集まって欲しいのですが。

この4月、28年前に女性だけで立ち上げた〈紅(くれない)塾〉の目玉「長崎ウーマンズ・ウォークラリー」が団体として長崎市政功労賞を頂くことになりました。

当時私はデザイン担当で、数年で紅塾も辞めましたが、毎年秋になると町角であのどピンクのポスターを見かけます。ウォークラリーも少しずつ形を変えながらも、この地で活躍した女傑たちを中心に歴史を繋ぐいいイベントとして定着しているなと思います。

これからもギネスに載るぐらいがんばって欲しいものですね♪



●監事 佐藤 秀人

輝ける未来の出島、「長崎伝習所」

長崎って、とても素敵なまちです。小粒なコンパクトシティで大都市ではないけれども、パリにもロンドンにも、東京にも福岡にも負けない文化と歴史と人情にあふれた暮らしやすいまちだと思います。

長崎は最近まで低迷期が続いていましたが、やっと長崎にフォローの風が吹いてきました。例えば、「世界三大夜景認定」「二つの世界遺産候補」「新幹線開通」「出島表門橋架橋」「交流拠点施設建設」「クルーズ客船寄港増加」「さるく観光定着」など、長崎にビジネスチャンスの芽がいくつも出てきました。

しかも、長崎には30周年を迎える「長崎伝習所」という全国に誇れる人材育成・活性化事業があります。この長崎伝習所のキャッチフレーズは、「時代の半歩先を行く」と「カエル・カワル・カソクスル」です。このキャッチフレーズ通りに、長崎伝習所への参加者(市民)を「新化(覚醒)」させ、問題解決能力・情報発信力に優れた人材に育てていくことが、今求められています。そして、その積み重ねにより、長崎伝習所は、価値ある情報発信基地としての「未来の出島」になれるのだと思います。ぜひ、あなたも伝習所に積極的に参加して、長崎のまちづくり・まちおこしと一緒に考えてもらえませんか。